

自衛隊機、部品落下原因究明を

橘よしあき市議の一般質問③



橘 祥朗
市議会議員

橘祥朗市議は、美保基地に配備されている、大型輸送機C2による航行中の部品落下問題をとり上げました。「配備後の3年間で、12回部品落下があり、多くは1gのビス等であったが、昨年12月には幅10センチ、重さ180gの

鉄板が落下している。部品も発見されないまま、落下防止に取り組みとしながらも繰り返し発生している」と指摘し、「被害が起こっていないとはいえず、訓練飛行は八束町内全域の上空で行われており、原因究明と、住宅密集地・学校上空を避けての飛行を住民は求めている」と主張、美保基地の軍事的強化になる新たな空中給油機の配備に市長が反対するよう求めました。

美保基地に対して、原因究明、再発防止策を講じ、安全運転に万全を期することを申しつけた。1月に、落下原因については部品の疲労破壊によるもの。改善策として、部材の大型化や取り付け本数の追加などの報告を受けた。引き続き、市民の安心・安全の確保のために、自衛隊機の整備や安全運行に万全を期すことを要望していく。また住宅密集地・学校の上空を避けるように要望していく。輸送任務という、基地機能の変化はない」など答弁しました。

「危険箇所ウォッチング」実る 路肩整備で通学路を確保・・・八束町

3月、子どもを通学路である、大型バスが通行する道路の路肩が整備されました。地域の保護者や子ども達から、安心して通学できると喜ばれています。(※写真参照)



路肩整備前(上)と整備後(下)

昨年8月、地域の子ども会が、八束学園と入江間の「通学路・危険箇所ウォッチング」を行い、尾村利成県議、橘祥朗市議が協力し、県土整備部課長、八束支所長、八束駐在所、交通安全

協会役員が参加しました。参加者は、八束学園前の交差点から通学路を歩き、危険箇所、横断歩道の要望カ所、交通標識の見えにくい箇所など確認して回りました。この時の要望の一つが、県土整備部や支所の尽力で年度内に実現したものです。

その他、八束学園前の交差点は、保育園児の散歩コース対策として、新年度松江市の予算で車の侵入防止策が計画されました。尾村、橘両氏は、寄せられた地域の要望に、これからも応えたいと話しています。

公民館複合施設建設 正確な判断材料の提供を

吉儀けい子市議の一般質問③



吉儀 けい子
市議会議員

吉儀敬子市議は、東出雲公民館の複合施設問題について ①保健相談センターエリアに建設予定の複合施設の建設費用 ②支所とふれあい会館の土地に埋め込

まれている杭の状況 ③耐震の状況を示すIs値 ④支所とふれあい会館を壊して更地にする費用と杭を引き抜く費用について質問しました。

①具体的な建設費用を示すことは難しい。②プレストレストコンクリート杭が、直径300mmから500mmで長さ6mから10mのものがある。③支所のIs値が0、4ふれあい会館のIs値が0、44(耐震基準は、0、6以上必要) ④現時点で正式に設計をしていないので、解体費用は示せないと、早弓康雄副教育長が答弁しました。

「少人数学級編制基準の後退は前代未聞」と市教委の見解を問う 田中はじめ市議2月議会代表質問③

田中はじめ市議は、2月議会代表質問で、丸山県知事が行った少人数学級編制基準の後退について取り上げ、教育委員会の見解を質しました。

田中市議は、
◇「多くの反対が寄せられたことで一定の修正も行われたが、市内小中学校にどのような影響をもたらすと考えるか。」
◇「ひとたび前進した編制基準が改悪され、後退するなどという事態は前代未聞であり、島根県のみならず、日本の教育条件整備の歴史に汚点を残すものではないか」

編成されると、当然教員の数が減り、教員が一人一人の児童・生徒に対応する時間が減少する。生徒指導上の困難が増えたり、学力が低下することが懸念される」
◇「そもそも学級編制基準は教育の根幹にかかわるものであり、この度の見直しは教育委員会として納得しがたいと考える」
◇「今回の見直しで学校運営に支障が生じないよう、影響緩和のための措置について検討したい」と答えました。



田中 肇
市議会議員

◇「子どもたちや教職員への悪影響をできるだけ抑えるために教育委員会としてどのような対応を考えているか」と質しました。
これに対し、清水伸夫教育長は、
◇「見直した基準で学級が